

講義名	中小商業論		
担当教員	向山 雅夫		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

「中小商業が流通において果たす役割」について理解することが本講義のテーマである。

人々の目は華やかな大規模小売業に向きがちであるが、実は中小小売商業は独自の世界を作っており、その存在は極めて重要である。また中小小売商業から大規模小売商業への成長の可能性もある。商業の世界は奥深いことに気づいてもらう。

到達目標

以下の点について能力を高めること。

1. 流通の仕組みについて理解する
2. 中小商業の存在意義を知る
3. データが意味するものを読み取る
4. 現実から情報を読み取る力を養う

提出課題

現地取材型の調査レポートを、中間レポートとして実施する
グループ研究のプレゼンを実施する
副読本を1冊指定し、用意した設問に回答する形式のレポートを課す

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

中間レポートは、報告会を開催し、個々のプレゼンに対してコメントする。
副読本レポートについては、講義中に回答を提示する。

評価の基準

最終試験 レポート、講義中の発言の程度、の各得点をもとに評価する。配点については、初回講義で告知する。ただし、レポートは通常よく実施される形式だけではなく、多様な形式で実施する。また、出席者との双方向のやり取りを取り入れた講義を実施するので、それに貢献した出席者には高い評価が与えられる。詳しい仕組みは、講義初回に詳細に説明する。

履修にあたっての注意・助言他

本講義は実験的な初の試みで実施されるので、必ず以下の注意事項を詳細に読んでから、履修すること！！
本講義を履修する学生は、15回全部出席しなければならぬし、ただ毎週座っているだけでは単位取得できない
履修可能人数を50名に限定する
学生が毎回の後半最終可能な数家（300予定）を用い、輪になって受講する
各学生の氏名を聞いたチーム別レポートを毎回着用し、SAが学生の発言度をチェックする（学生の氏名と顔を教員が把握した状況下で講義する）
受講者をチーム分けし、グループ研究を講義中に実施する
受講生には、第10回の講義日までに自主的に学外の商店街を見学に行ってもらう
外部から、町家の講師を招待する（回程度）
スマホの電源を切ってもらう
現地取材型の中間レポートを課し、優秀作品を紹介するレポート発表会を開催する。

本講義では、登壇をすることはできないし、内職もできないし、講義中ずっとスマホをいじることできないし、私語もできない。また講義を適当に欠席することもできない（グループ研究の妨げになるので）。講義形式としては、セミスタイルを採用するが、この場合の意味は、「適当に出席していれば単位が取れる」というい加減なセミスタイルを意味していないことに留意されたい。一方で、少人数で本当に意味で学びたい、しかも他の講義にない方法で、と思う学生には、最高の講義になるだろう。

教科書	.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

参考文献
・遠辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫、『21世紀中小企業論（第3版）』、有斐閣アルマ、2013年
・加藤可・石原武政（編著）、『地域商業の競争構造』、中央経済社、2009年

授業計画

回数 授業 計
1. ガイダンスと中小商業は必要か？
2. 中小商業の基礎理論（1）
3. 中小商業の基礎理論（2）
4. 講義テーマの決定（全体ディスカッション）
5. 講義テーマ1についての講義
6. 講義テーマ2についての講義
7. 講義テーマ3についての講義
8. 講義テーマ4についての講義とグループ分け
9. 各自に割り当てられたテーマについての自主調査日
10. グループディスカッション
11. グループ・プレゼン（イグループ）
12. 中小商業の起業
13. 中小商業の活性化
14. 中間レポート報告会
15. まとめ（予備日）

なお上記計画は後期間始時までに少々変更される可能性がある。最終的な計画は、後期間始時に提示する。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○ ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
□ ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
○ オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
○ キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：本講義の内容に関連する参考文献を副読本として各自で自由に読破し、講義内容の理解を容易にする努力をしてほしい。毎週2時間を要する。
復習：数回実施するレポート課題に取り組むことで、講義内容をより深く理解してもらいたい。毎週1時間を要する。
レポート作成・グループ研究は、講義時間外に現地取材をして作成する。それに要する時間は、受講生自身のやる気に依存する。ハイレベルを目指すのであれば、かなりの時間を要することは難しい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

中小商業の構造を知るために商業統計などのデータを利用して、その数値的理解を構造理解に結び付けることを狙いとしている。これによって、流通の世界における中小商業の位置づけ、その変化、その意味が理解できる。また、講義で取り上げる4大トピックスは、現代日本社っている（たとえば高齢者問題や街づくり）。これらの点を理解することはコース固有のDPそのものであり、学生が就職先を考慮する際の、選択肢の拡大にもつながることが多いに期待される。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

ディスカッション・グループ研究とその発表会などを通じて、毎週の講義はすべて完全双方向授業であり、垂れ流し型の講義は行わない。ただしコロナ感染状況に依って、15回のうちの一部がオンラインに変更になる可能性があることに注意してほしい。

実務経験の有無及び活用

備考

本年度の講義は、他の講義と比較して、多くの点で異なった様式で実施される。ただ出席して座っているだけでは単位取得は不可能である。狙いは、学びたい学生に真剣に講義に取り組んでもらうためである。よって、出席する学生には正しい「学びの姿勢」を強く求める。